

図書館を移転すれば市街地のにぎわいが取り戻せるか？!

「中心市街地にぎわい創出拠点整備事業」として、織物組合用地に図書館を中心とした官民共同の施設をつくる計画が進行中です。昨年度末に基本構想素案が示され、「検討委員会」や「市民ワークショップ」などで検討されています。

図書館と民間部門のインキュベーション機能（起業をめざす人々の交流や支援の場としてオフィススペースやチャレンジショップ等）、織物関連資料展示機能（織物組合事務所を含む）を備えた施設とし、あらゆる世代の人々が集い、憩い、交流できる「にぎわい拠点」にする計画です。

建設費だけでも40億円以上必要で、毎年の借地料や運営費もかかり、近年では市として最大の事業になります。市長は「建設や運営も民間に任せた方が費用が安く、サービスも良い」といいます。が、本当でしようか？

今でも図書館で働いている職員の半数が、非正規です。安上がりだからと民間に任せこれ以上人件費を削り専門職が減つたら、図書館の



図書館複合施設の予定地となった織物組合用地（建物は織物会館）

学校の図書購入費 国の基準との比較

	国の基準	市の購入費
小学校	1924万円	1238万円
中学校	1246万円	1063万円

地にある図書館を300m離れた場所に新築移転したら新たなにぎわいの核になるという論も、根拠が薄いように思えます。たくさん的人が訪れる素晴らしい図書館とはどんなものか？しっかりと議論が必要ですが、12月には意見をまとめてパブリックコメント＝市民意見の募集を行うとのことです。

日本共産党議員団は、「市民意見を反映して計画を練り直すくらいの丁寧さが必要であり、もし作るなら市の直営で充実します。」と少なくなっています。

「冊数は基準通りそろっている。置く場所がないので増やせない」といいますが、古い本をそのままにしておけば確かに新しい本は増やせません。

「立派な図書館をつくるのなら、学校の図書館もせめて国の基準額ぐらいは予算をとり、充実させてほしい」と、要望しました。

機能が維持できるか心配です。

たるもの」と求めていま

たちは、戦後すぐの宅地開発で築造した道路の中には、行き止まり道路だけでなく通り抜け道路まで市に寄付せず私道のままになっている箇所がかなりあります。私道が老朽化しても土地所有者だけの負担で舗装するのではなく、市が負担で舗装する補修助成制度を導入する考え方を聞きました。

全国的には私道の舗装に補助を出したり、通り抜け道路については「みなし公道」として自治体が舗装したりする例も出ています。

そこで、市として把握している私道の現状と、私道の補修助成制度を導入する考え方を聞きました。

「市内にある私道は現在100路線把握している。他市の事例を調査・研究し、導入について検討していく。」

という、今後に期待できる答弁でした。

ひび割れや陥没が目立つ
私道が増えています ↓



私道の舗装に補助を！

公共交通のさらなる充実を

昨年11月から始まったタクシー活用事業について現状と改善に向けての取り組みを聞き、以下の提案をしました。

- ①マイナンバーを使わない人も、一度手続きをすれば毎年役所に行かなくても電話で申し込める制度に改善を。
- ②支所でも申請受付日数を増やして欲しい。
- ③利用者の9割が3千円未満の利用で、半額助成では負担額が重く使いにくい情況があります。助成割合を拡大して、日常の足にタクシー使えるように改善を。
- ④コミュニティバスの運行やタクシー活用事業に加え、タクシー活用が困難な地域では300円～400円程度で利用できるデマンドタクシーも導入し、制度の組み合わせての活用で、どこに住んでも安心して暮らせる公共交通の充実を。

タクシー活用事業の結果を見ながら、さらに公共交通対策の充実を求めていきましょう。

無料法律生活相談会

- 毎月第4月曜日 18時～ 弁護士と市議が対応
- お申し込みは北島・長谷田市議まで